

社会教育委員・担当者 共に学ぼう！研修

～未来を見据え、学びを動きにつなげる「社会教育委員」と「担当者」～

R7.12.4 (木)
あすてらす

【講義】「よきこと」をつなぐ、「よき存在」になる
一子どもたちの「ふるさと」をつくる/社会教育委員・担当者の役割を考えるー

大正大学教授/東京大学名誉教授
牧野 篤 氏



■語りあって当事者になる

- ・益田市の事例（益田版カタリ場）から
子どもたちは、大人たちから自分の人生（失敗談も含む）の話をくり返し聞く中で、
自分の人生を考えていく。

■社会教育の概念を問う

- ・社会教育という概念は、学校教育との対比によって規定してきた。
- ・第4期教育振興基本計画の基本コンセプト
 - ：「持続可能な社会の創り手の育成」
 - ：「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」
- ・社会教育は、地域コミュニティを基盤とする社会の土台ある。人と人との「かかわり」や「つながり」の土壌を耕していくという役割が強調され、それが社会の持続可能性およびウェルビーイングと結びつけられている。

■CompassionとWell-being（思いやり・我が事化と幸せを感じること）

- ・Compassionとは…悲しみを分かちあうこと。相手の身になること。（自分ごとにしていく）
- ・Well-beingとは…一人ひとりが幸せな状態にあると思えてること。
- ・Well-beingの社会教育の役割として、「よき状態（幸せを感じる状態）」から、「よき存在（社会に位置づく自己の認識）」へ
- ・「恩送り」は、自分への見返りを考えずに、相手にとって「よきこと」をすること。
⇒次世代を育むこと、社会をつなげること。

「サクセスフル・エイジング（積極的に年をとる）」「ポジティブ・エイジング（社会とかかわることで更に活躍する年齢を伸ばす）」の先に、人生最後の一時期をどう過ごすのかが問われる。

■GenerativityとTranscendence

- ・Generativityとは…次世代にかかわりたくなる自然な傾向性
- ・Transcendenceとは（次世代への関心・かかわりと老年的超越）
 - …目の利害から気持ちが離れて、満足な最期を迎えることができる。

【実践発表】地域で活躍する安来市社会教育委員

安来市の社会教育委員について

■安来市が社会教育委員に期待している役割

- ①行政と住民のパイプ役
- ②住民の学習ニーズに関するアンテナ的な役割
- ③住民と一緒にして社会教育活動を推進・調整
- ④社会教育関係団体への支援者の役割

■主な活動

- ・年2回程度の会議
- ・各種研修への参加
- ・市事業への参画



地域で活躍する社会教育委員

社会教育委員の意見交換から

■地域住民を対象とした活動

目指す姿
「高齢者がイキイキと暮らし、地域で住み続ける」

- ・地域住民が集まって楽しむ事業をする
- ・交流センターが地域活動の場所となる
- ・高齢者も現役世代も地域活動に関わるよう世の中の意識を変えていく

地域での実践活動

- ・「地域の盛り上げ隊」の一員として ⇒交流センターの活動に参加
- ・地域で助け合う活動（互助の意識の醸成ながら） ⇒買い物や草取り等の支援

↑
地域全体が豊かになる

■学校と地域が連携して行う活動

目指す姿

「若い保護者世代が地域に誇りをもち、皆があいさつしあう」

- ・子どもが地域で活躍できる場を学校・地域・交流センターが協力調整してつくる
- ・伝統行事や地域行事を充実させ自治会を巻き込んで地域を動かす

地域での実践活動

- ・学校の声を地域へ、地域の声を学校へ届ける
- ・学校と地域が一体となって子どもたちを育む活動
⇒地域の歴史や文化を伝える取組（地域の歴史かるたの読み語り）
⇒子どもたちの出番を増やす（地域の夏祭りに学校の学習展示ブースを出展）

安来市社会教育委員の会

安来市市民生活部地域振興課担当者



■青少年・家庭教育と連携した活動

目指す姿

「働く人や子育てをしている人の活動の場がある」

- ・子育て世代も参加したくなる事業をする
- ・地域の文化やくらしに誇りを持つことのできる関わりをしていく
- ・学校以外で子どもの学習を支える場をつくっていく



(出された意見一部抜粋)

【演習】「未来を見据え、学びを動きにつなげる『社会教育委員・担当者』をめざして」

①「社会教育委員・委員の会」として、今後やりたいことを、ワークシートに記入する。

→記入した内容をグループ内で紹介し意見交流をする。

「社会教育委員」として

- ・子どもが地域交流をサポート
- ・みんなが「よき存在」になる土壤づくり
- ・地域と子どもたちをつなぐ！
- ・地域の方々の思いや意見を行政や学校に届ける

「委員の会」として

- ・子どもの声・意見を聴く、姿勢
- ・学びの機会と啓発
- ・市教育委員会と他の課の連携強化
- ・発言しやすい委員の会を目指す

【アンケートから】

・これからの町の姿のとらえ方、意義の変革・世代を超えた関わり、交わることの意味と大切さ・行政と地域の関わり、関係の深さ、委員の存在感・教育現場、生徒と地域との関わり、受け入れ、協働これらを多く学べました。

・心に残ったキーワード→“AAR” “ふるさと” “ウェルビーイング”→『AARを心がけ、ふるさとを目標に、ウェルビーイングを目的に』と思いました。

・社会教育委員と担当者の方々が一堂に会する研修は貴重で、横のつながりをつくる良い機会となりました。特に演習では、それぞれの現場の課題感を共有でき、有意義な研修でした。



②「社会教育委員・委員の会」として、それを実行に移すため、どう動き出すか、ワークシートに記入する。

→記入した内容をグループ内で紹介し意見交流をする。

「社会教育委員」として

- ・日々の関わりの中で、子ども・地域との対話を実践する
- ・「地域」×「子ども」の要素を意識して事業企画・運営する
- ・会合等で名刺を渡し、社会教育委員の認知度を上げる
- ・広報等で活動を紹介する

「委員の会」として

- ・委員同士のつながりを深める
- ・教育委員会が何を求めているか理解する
- ・情報のアンテナを張る
- ・行政・教育委員との意見交換



・人のつながり、コミュニケーション、対話、多世代との関わり、一人一人が幸せを感じる、自分ごととして、など、活動のヒントになる言葉がたくさんありました。今後自分の活動にいかしていきたいと思いました。

・全体講評の中での言葉が印象に残りました。一緒に悩むこと(見捨てられない)、伴走支援していく、これがまさに社会教育に必要なことだと思います。まわりにいつも居るよという存在になりたいです。